

つくば市の不登校に関する児童生徒支援のあり方 (案)

つくば市教育委員会

令 4 年（2022 年）●月●日

内容

1	不登校児童生徒の現状と課題について	2
(1)	つくば市の不登校児童生徒の状況	2
①	つくば市の不登校児童生徒数 ^(※1) 及び割合	2
②	つくば市と茨城県の不登校児童生徒数割合(図2)	2
③	不登校の主な要因と欠席日数ごとの不登校児童生徒数	3
(2)	長期欠席児童生徒アンケート結果等からみるつくば市の不登校児童生徒の状況	3
①	欠席日数	4
②	学校に行かなかった(行けなかった)理由	5
③	学校環境に関するニーズ	8
④	相談・対応に関すること	11
⑤	保護者の困り感	14
2	つくば市の不登校児童生徒支援に関する基本理念	16
3	多様性や個性を認め伸ばす学校づくり	17
4	状況別の不登校児童生徒への支援	17
(1)	主な要因に合わせた支援	17
①	本人の心の不安を主な理由にする児童生徒	17
②	家庭における問題や家庭環境に原因がある児童生徒	18
③	学校生活に適應できない児童生徒	18
(2)	欠席日数に応じた支援	19
①	欠席日数が比較的少ない児童生徒	19
②	欠席日数が比較的多い児童生徒	19
③	ほとんど出席できない児童生徒	19
5	支援策の推進スケジュール	20
①	校内フリースクールの整備(1校に1室配置)	20
②	スクールカウンセラーの増員(1校に1人配置)	20
③	スクールソーシャルワーカーの増員(1学園に1人配置)	20
④	不登校児童生徒の保護者に対する補助金の創設	20
⑤	不登校児童生徒の民間支援施設に対する事業費補助金の創設	20

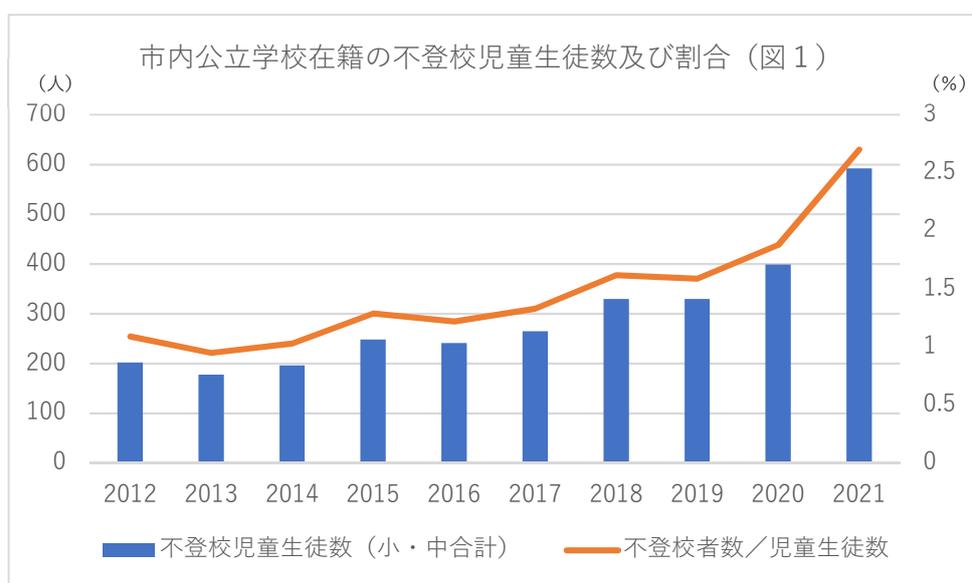
1 不登校児童生徒の現状と課題について

(1) つくば市の不登校児童生徒の状況

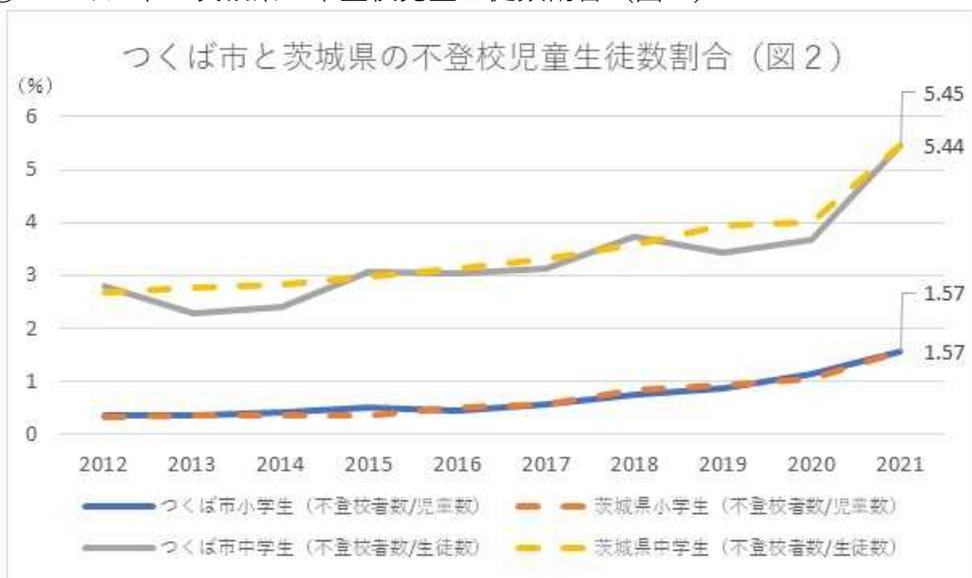
① つくば市の不登校児童生徒数^(※1)及び割合

つくば市では不登校児童生徒数が増加傾向にあり、全児童生徒数に対する不登校児童生徒数の割合も増加している。

(※1) 文部科学省に報告する年間欠席日数が 30 日以上



② つくば市と茨城県の不登校児童生徒数割合 (図 2)



つくば市、茨城県ともに小学生に比べ中学生の方が不登校児童生徒数の割合が高い。つくば市における不登校児童生徒数の割合は年々増加しており、令和 3 年 (2021 年) は不登校児童生徒数の割合が小学生は 1.57%、中学生は 5.45%であった。小学生が 0.35%、中学生が 2.28%であった平成 25 年 (2013 年) と比較すると、小学生で 1.22 ポイント、中学生で 3.17 ポイント増加している。

③ 不登校の主な要因と欠席日数ごとの不登校児童生徒数

令和3年度末の不登校児童生徒数は592人（小学校243人、中学校349人）であった。

令和3年度不登校児童生徒要因別欠席日数別人数

主な 要因 欠席 日数	本人		家庭			学校								その他	合計	割合
	生活 リズム等	無気力 不安	家庭 環境	親子 関係	家庭内 不和	いじめ	友人 関係	教職員	学業	進路	部活	きまり	進級			
30～49	23	64	20	3	0	0	19	0	8	2	0	2	2	8	151	25.5%
50～99	30	78	18	5	2	1	13	3	10	0	0	2	0	15	177	29.9%
100～149	17	87	9	5	0	0	10	1	5	0	0	0	0	4	138	23.3%
150～	10	65	16	6	1	0	14	3	3	0	0	1	1	6	126	21.3%
合計	80	294	63	19	3	1	56	7	26	2	0	5	3	33	592	
	374		85			100								33	592	

(2) 長期欠席児童生徒アンケート結果等からみるつくば市の不登校児童生徒の状況

令和4年（2022年）7月、学校生活での悩みや欠席の要因、希望する支援や対応等を把握し、つくば市や学校が今後行う支援のあり方を検討するため、令和3年度に年間30日以上在籍校を欠席した児童生徒及び保護者のうち、学校からアンケート用紙を配付することができた児童生徒及び保護者各581名を対象に、アンケート調査を実施した。

児童生徒アンケートの回答者数は、小学生71名、中学生102名、無回答2名の合計175名（回答率30.1%）であった。

保護者アンケートの回答者数は、小学生の保護者85名、中学生の保護者116名、無回答1名の合計202名（回答率34.7%）であった。

児童生徒アンケートの回答者数（学年は、回答者自身の令和4年度の学年）

2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生	無回答	合計	小学生	中学生
7	13	12	14	25	24	33	45	2	175	71	102

保護者アンケートの回答者数（学年は、回答した保護者の子供の令和4年度の学年）

2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生	無回答	小学生	中学生
12	17	13	16	27	29	40	47	1	85	116

① 欠席日数

児童生徒アンケート（小学生 71名）：令和3年度に学校を欠席した、だいたいの日数

選択肢	回答数	割合
30日から60日	18	25.4%
60日から90日	11	15.5%
90日から180日	13	18.3%
180日以上（ほとんどすべて欠席した）	28	39.4%
無回答	1	1.4%

児童生徒アンケート（中学生 102名）：令和3年度に学校を欠席した、だいたいの日数

選択肢	回答数	割合
30日から60日	23	22.5%
60日から90日	24	23.5%
90日から180日	15	14.7%
180日以上（ほとんどすべて欠席した）	38	37.3%
無回答	2	2.0%

児童生徒アンケートによると、「令和3年度に学校を欠席した、だいたいの日数」としてあてはまるものは、小学生、中学生ともに「180日以上」が最も多かった。

② 学校に行かなかった（行けなかった）理由

児童生徒アンケート（小学生 71名）：学校に行かなかった（行けなかった）理由

選択肢	1 よくあてはまる	2 ややあてはまる	3 どちらともいえない	4 あまりあてはまらない	5 まったくあてはまらない	無回答	あてはまるの割合(1+2)
身体の不調（学校に行こうとするとお腹が痛くなったなど）	24	11	6	7	23	0	49.3%
新型コロナウイルス感染症に関すること	11	9	6	10	35	0	28.2%
友達のこと（いやがらせやいじめがあったなど）	1	10	10	5	45	0	15.5%
学校の先生のこと（先生が怖かった、先生と合わなかったなど）	8	7	8	7	41	0	21.1%
勉強のこと（勉強がわからなかった、授業がおもしろくなかったなど）	9	14	10	6	32	0	32.4%
家庭のこと（親と仲が悪い、親の注意がうるさかったなど）	1	2	7	9	52	0	4.2%
生活リズムの乱れ（朝起きられなかったなど）	5	10	10	10	36	0	21.1%
なんとなくやる気がでなかった	15	16	8	8	24	0	43.7%
インターネット、ゲームなどの影響（楽しくてやめられなかったなど）	1	6	7	18	39	0	9.9%

児童生徒アンケート（中学生 102名）：学校に行かなかった（行けなかった）理由

選択肢	1 よくあてはまる	2 ややあてはまる	3 どちらともいえない	4 あまりあてはまらない	5 まったくあてはまらない	無回答	あてはまるの割合(1+2)
身体の不調（学校に行こうとするとお腹が痛くなったなど）	34	19	6	19	23	1	52.0%
新型コロナウイルス感染症に関すること	2	9	5	10	75	1	10.8%
友達のこと（いやがらせやいじめがあったなど）	12	13	13	7	57	0	24.5%
学校の先生のこと（先生が怖かった、先生と合わなかったなど）	4	9	11	13	64	1	12.7%
勉強のこと（勉強がわからなかった、授業がおもしろくなかった	18	21	16	7	38	2	38.2%
家庭のこと（親と仲が悪い、親の注意がうるさかったなど）	7	4	17	11	62	1	10.8%
生活リズムの乱れ（朝起きられなかったなど）	19	32	13	6	31	1	50.0%
なんとなくやる気がでなかった	41	20	10	9	21	1	59.8%
インターネット、ゲームなどの影響（楽しくてやめられなかった	11	18	8	15	49	1	28.4%

児童生徒アンケートによると、「学校に行かなかった（行けなかった）理由」としてあてはまるものは、小学生は「身体の不調」、「なんとなくやる気がでなかった」、「勉強のこと」の順に多かった。中学生では「なんとなくやる気がでなかった」、「身体の不調」、「生活リズムの乱れ」の順に多く、全回答者の5割以上を占めていた。

両者を比較すると、「新型コロナウイルス感染症に関すること」が小学生では17.4ポイント高く、「生活リズムの乱れ」、「なんとなくやる気がでなかった」は中学生の方がそれぞれ28.9ポイント、

16.1 ポイント高かった。

児童生徒アンケート（小学生 71名）：学校を休んでいたときに感じたこと、思ったこと

選択肢	1 よくあてはまる	2 ややあてはまる	3 どちらともいえない	4 あまりあてはまらない	5 まったくあてはまらない	無回答	あてはまるの割合(1+2)
勉強の遅れが心配だった	13	20	13	6	18	1	46.5%
友達との関係が心配だった	11	12	7	9	31	1	32.4%
ほっとした、安心した	15	12	18	10	15	1	38.0%
気持ちが落ち込んだ	9	12	10	11	27	2	29.6%
学校に行きたかった	14	15	10	8	23	1	40.8%
自由な時間が増えてうれしかった	18	14	16	13	9	1	45.1%

児童生徒アンケート（中学生 102名）：学校を休んでいたときに感じたこと、思ったこと

選択肢	1 よくあてはまる	2 ややあてはまる	3 どちらともいえない	4 あまりあてはまらない	5 まったくあてはまらない	無回答	あてはまるの割合(1+2)
勉強の遅れが心配だった	38	28	8	8	15	5	64.7%
友達との関係が心配だった	19	14	16	16	31	6	32.4%
ほっとした、安心した	15	14	33	10	26	4	28.4%
気持ちが落ち込んだ	22	16	19	13	27	5	37.3%
学校に行きたかった	11	16	21	18	31	5	26.5%
自由な時間が増えてうれしかった	24	26	16	18	13	5	49.0%

児童生徒アンケートによると、「学校を休んでいたときに感じたこと、思ったこと」としてあてはまるものは、小学生は「勉強の遅れが心配だった」、「自由な時間が増えてうれしかった」、「学校に行きたかった」の順に高く、全回答者の4割以上を占めた。中学生では「勉強の遅れが心配だった」、「自由な時間が増えてうれしかった」、「気持ちが落ち込んだ」の順に高かった。

「勉強の遅れが心配だった」と回答した割合は、中学生の方が小学生よりも18.2ポイント高く、中学生の約3分の2が勉強の遅れを懸念していることが示された。一方で、「学校に行きたかった」と回答した割合は、小学生の方が中学生よりも14.3ポイント高かった。

保護者アンケート（小学生 71名）：学校に行かなかった（行けなかった）理由

選択肢	1 よくあてはまる	2 ややあてはまる	3 どちらともいえない	4 あまりあてはまらない	5 まったくあてはまらない	無回答	あてはまるの割合(1+2)
身体の不調	32	11	5	14	23	0	50.6%
新型コロナウイルス感染症に関すること	18	14	11	9	33	0	37.6%
友達のこと	5	14	9	15	41	1	22.4%
学校の先生のこと	13	13	11	15	32	1	30.6%
勉強のこと	7	16	16	15	30	1	27.1%
家庭の事情	6	5	15	14	44	1	12.9%

保護者アンケート（中学生 102名）：学校に行かなかった（行けなかった）理由

選択肢	1 よくあてはまる	2 ややあてはまる	3 どちらともいえない	4 あまりあてはまらない	5 まったくあてはまらない	無回答	あてはまるの割合(1+2)
身体の不調	47	21	11	15	18	4	58.6%
新型コロナウイルス感染症に関すること	5	21	15	25	47	3	22.4%
友達のこと	21	29	21	20	23	2	43.1%
学校の先生のこと	12	13	25	29	33	4	21.6%
勉強のこと	23	25	22	17	25	4	41.4%
家庭の事情	8	12	18	28	47	3	17.2%

保護者アンケートによると、子供が「学校に行かなかった（行けなかった）理由」としてあてはまるものは、小学生は「身体の不調」、「新型コロナウイルス感染症に関すること」、「学校の先生のこと」の順に多かった。中学生では「身体の不調」、「友達のこと」、「勉強のこと」の順に多く、全回答者の4割以上を占めていた。

両者を比較すると、「新型コロナウイルス感染症に関すること」が小学生では15.2ポイント高く、「勉強のこと」は中学生の方が14.3ポイント高かった。

③ 学校環境に関するニーズ

児童生徒アンケート（小学生 71名）：どんな学校だったら行きたいと思うか

選択肢	1 よくあてはまる	2 ややあてはまる	3 どちらともいえない	4 あまりあてはまらない	5 まったくあてはまらない	無回答	あてはまるの割合(1+2)
いつ行ってもいい	25	17	11	5	12	1	59.2%
ゆっくり休める場所がある	22	22	9	8	10	0	62.0%
一人になれる場所がある	18	13	15	10	15	0	43.7%
好きな勉強ができる	22	28	10	5	6	0	70.4%
友達といっぱい遊べる	34	11	11	8	7	0	63.4%
気軽に先生と話せる	25	14	11	12	9	0	54.9%
先生が声をかけてくれる	18	14	19	13	7	0	45.1%
特にない	9	5	20	7	29	1	19.7%
わからない	9	9	16	6	30	1	25.4%

児童生徒アンケート（中学生 102名）：どんな学校だったら行きたいと思うか

選択肢	1 よくあてはまる	2 ややあてはまる	3 どちらともいえない	4 あまりあてはまらない	5 まったくあてはまらない	無回答	あてはまるの割合(1+2)
いつ行ってもいい	37	24	15	8	15	3	59.8%
ゆっくり休める場所がある	50	16	14	6	12	4	64.7%
一人になれる場所がある	39	18	13	14	14	4	55.9%
好きな勉強ができる	38	24	16	7	13	4	60.8%
友達といっぱい遊べる	25	16	25	19	13	4	40.2%
気軽に先生と話せる	27	24	22	9	16	4	50.0%
先生が声をかけてくれる	21	18	27	13	18	5	38.2%
特にない	21	7	28	9	32	5	27.5%
わからない	13	8	29	10	35	7	20.6%

児童生徒アンケートによると、「どんな学校だったら行きたいと思うか」にあてはまるものは、小学生は「好きな勉強ができる」、「友達といっぱい遊べる」、「ゆっくり休める場所がある」の順に多く、全回答者の6割以上を占めた。さらに、「いつ行ってもいい」、「気軽に先生と話せる」も全回答者の半数以上を占めた。

一方、中学生では「ゆっくり休める場所がある」、「好きな勉強ができる」、「いつ行ってもいい」の順に多く、回答者の約6割以上を占めた。さらに、「一人になれる場所がある」、「気軽に先生と話せる」も全回答者の半数以上を占めた。

両者を比較すると、「友達といっぱい遊べる」は小学生の方が中学生よりも 23.2 ポイント高く、

「一人になれる場所がある」は中学生の方が小学生よりも 12.2 ポイント高かった。

児童生徒アンケート（小学生 75 名）：学校を休んでいるときにあったと思うもの

選択肢	1 よくあてはまる	2 ややあてはまる	3 どちらともいえない	4 あまりあてはまらない	5 まったくあてはまらない	無回答	あてはまるの割合 (1+2)
勉強を教えてくれる人	6	11	25	9	17	3	23.9%
一緒に遊ぶ人	22	22	9	8	10	0	62.0%
相談できる人	18	13	15	10	15	0	43.7%
一人になれる場所	22	28	10	5	6	0	70.4%
一人になれる時間	34	11	11	8	7	0	63.4%
人が集まる場所	25	14	11	12	9	0	54.9%
特にない	18	14	19	13	7	0	45.1%

児童生徒アンケート（中学生 102 名）：学校を休んでいるときにあったと思うもの

選択肢	1 よくあてはまる	2 ややあてはまる	3 どちらともいえない	4 あまりあてはまらない	5 まったくあてはまらない	無回答	あてはまるの割合 (1+2)
勉強を教えてくれる人	28	20	14	14	19	7	47.1%
一緒に遊ぶ人	50	16	14	6	12	4	64.7%
相談できる人	39	18	13	14	14	4	55.9%
一人になれる場所	38	24	16	7	13	4	60.8%
一人になれる時間	25	16	25	19	13	4	40.2%
人が集まる場所	27	24	22	9	16	4	50.0%
特にない	21	18	27	13	18	5	38.2%

児童生徒アンケートによると、「学校を休んでいるときにあったと思うもの」は、小学生は「一人になれる場所」、「一人になれる時間」、「一緒に遊ぶ人」の順に多く、全回答者の 6 割以上を占めた。中学生では「一緒に遊ぶ人」、「一人になれる場所」、「相談できる人」の順に多かった。

両者を比較すると、「一人になれる時間」は小学生の方が中学生よりも 23.2 ポイント高く、「勉強を教えてくれる人」、「相談できる人」は中学生の方が小学生よりもそれぞれ 23.2 ポイント、12.2 ポイント高かった。

小学生の保護者アンケート（85名）：お子さんが学校を休んでいるときに過ごしてほしい場所

選択肢	1 よくあてはまる	2 ややあてはまる	3 どちらともいえない	4 あまりあてはまらない	5 まったくあてはまらない	無回答	あてはまるの割合(1+2)
勉強を教えてくれる場所	21	25	13	7	18	1	54.1%
自由に過ごせる場所	36	25	9	3	11	1	71.8%
一人で遊べる場所	28	21	12	7	16	1	57.6%
のんびりできる場所	36	20	14	5	9	1	65.9%
誰かと関われる場所	29	6	9	9	31	1	41.2%
特にない	10	0	7	0	9	59	11.8%

中学生の保護者アンケート（116名）：お子さんが学校を休んでいるときに過ごしてほしい場所

選択肢	1 よくあてはまる	2 ややあてはまる	3 どちらともいえない	4 あまりあてはまらない	5 まったくあてはまらない	無回答	あてはまるの割合(1+2)
勉強を教えてくれる場所	54	30	16	7	5	4	72.4%
自由に過ごせる場所	41	30	22	12	7	4	61.2%
一人で遊べる場所	32	28	22	19	11	4	51.7%
のんびりできる場所	43	33	18	12	6	4	65.5%
誰かと関われる場所	30	21	23	15	24	3	44.0%
特にない	6	2	8	7	17	76	6.9%

保護者アンケートによると、「お子さんが学校を休んでいるときに過ごしてほしい場所」は、小学生は「自由に過ごせる場所」、「のんびりできる場所」、「一人で遊べる場所」の順に多かった。中学生では「勉強を教えてくれる場所」、「のんびりできる場所」、「自由に過ごせる場所」の順に多かった。

両者を比較すると、「自由に過ごせる場所」は、小学生の方が中学生よりも 10.6 ポイント高く、「勉強を教えてくれる場所」は、中学生の方が小学生よりも 18.3 ポイント高かった。

④ 相談・対応に関すること

児童生徒アンケート（小学生 71名）：担任の先生や家族以外で、学校に行かなかった（行けなかった）ことを相談した人

選択肢	回答数
学校のカウンセラー	10
担任以外の先生（保健室の先生など）	6
フリースクールの人	5
病院の先生	15
相談した人はいない	15
その他	10

児童生徒アンケート（中学生 102名）：担任の先生や家族以外で、学校に行かなかった（行けなかった）ことを相談した人

選択肢	回答数
学校のカウンセラー	24
担任以外の先生（保健室の先生など）	17
フリースクールの人	9
病院の先生	33
相談した人はいない	18
その他	17

児童生徒アンケートによると、「担任の先生や家族以外で、学校に行かなかった（行けなかった）」ことについて相談した人は、小学生は「病院の先生」、「相談した人はいない」、「学校のカウンセラー」の順に多かった。中学生では「病院の先生」、「学校のカウンセラー」、「相談した人はいない」の順に多かった。

児童生徒アンケート（小学生 71名）いやだった対応

選択肢	1 よくあてはまる	2 ややあてはまる	3 どちらともいえない	4 あまりあてはまらない	5 まったくあてはまらない	無回答	あてはまるの割合(1+2)
先生の家庭訪問	4	5	6	13	41	2	12.7%
先生と面談で話すこと	5	2	12	12	38	2	9.9%
友達からの声かけ	3	10	11	13	33	1	18.3%
学校以外の相談窓口で相談すること	2	3	15	7	42	2	7.0%

児童生徒アンケート（中学生 102名）いやだった対応

選択肢	1 よくあてはまる	2 ややあてはまる	3 どちらともいえない	4 あまりあてはまらない	5 まったくあてはまらない	無回答	あてはまるの割合(1+2)
先生の家庭訪問	9	9	26	14	39	5	17.6%
先生と面談で話すこと	12	11	24	19	31	5	22.5%
友達からの声かけ	11	12	24	13	37	5	22.5%
学校以外の相談窓口で相談すること	7	7	19	11	50	8	13.7%

児童生徒アンケートによると、「いやだった対応」としてあてはまるものは、小学生、中学生ともに「友達からの声かけ」が最も多かった。さらに、中学生は「先生と面接で話すこと」も「友達からの声かけ」と同ポイントで、いやだった対応であった。

小学生の保護者アンケート（85名）：お子さんの担任以外で、お子さんの学校のことを相談した機関

選択肢	回答数
スクールカウンセラー	33
スクールソーシャルワーカー	8
つくば市教育相談センター	21
フリースクールなど民間団体の相談窓口	16
病院、診療所	33
児童相談所	1
その他	17

中学生の保護者アンケート（116名）：お子さんの担任以外で、お子さんの学校のことを相談した機関

選択肢	回答数
スクールカウンセラー	36
スクールソーシャルワーカー	12
つくば市教育相談センター	30
フリースクールなど民間団体の相談窓口	19
病院、診療所	63
児童相談所	6
その他	19

保護者アンケートによると、「お子さんの担任以外で、お子さんの学校のことを相談した機関」は、小学生は「スクールカウンセラー」、「病院、診療所」、「つくば市教育相談センター」の順に多かった。中学生は「病院、診療所」、「スクールカウンセラー」、「つくば市教育相談センター」の順に多かった。中学生が全回答者の半数以上が「病院、診療所」で相談を行っていた。

⑤ 保護者の困り感

小学生の保護者アンケート（85名）：今、お子さんのことで困っていること

選択肢	1 よくあてはまる	2 ややあてはまる	3 どちらともいえない	4 あまりあてはまらない	5 まったくあてはまらない	無回答	あてはまるの割合(1+2)
勉強の遅れや学力の低下	24	18	10	14	16	3	49.4%
進路（進学・就職など）	15	17	9	19	22	3	37.6%
昼夜逆転など生活リズムの乱れ	5	13	8	21	35	3	21.2%
ゲームやインターネット依存	11	16	19	15	21	3	31.8%
家族に対する暴言や暴力	1	8	3	13	57	3	10.6%
気持ちが不安定になっている（イライラ、焦り、不安など）	6	22	8	14	32	3	32.9%

中学生の保護者アンケート（116名）：今、お子さんのことで困っていること

選択肢	1 よくあてはまる	2 ややあてはまる	3 どちらともいえない	4 あまりあてはまらない	5 まったくあてはまらない	無回答	あてはまるの割合(1+2)
勉強の遅れや学力の低下	58	27	11	8	3	9	73.3%
進路（進学・就職など）	61	22	12	10	3	8	71.6%
昼夜逆転など生活リズムの乱れ	24	22	9	28	24	9	39.7%
ゲームやインターネット依存	25	30	23	17	12	9	47.4%
家族に対する暴言や暴力	3	10	9	15	70	9	11.2%
気持ちが不安定になっている（イライラ、焦り、不安など）	18	31	15	22	22	8	42.2%

保護者アンケートによると、「今、お子さんのことで困っていること」は、小学生は「勉強の遅れや学力の低下」、「進路（進学・就職など）」、「気持ちが不安定になっている」の順に多かった。中学生は「勉強の遅れや学力の低下」、「進路（進学・就職など）」、「ゲームやインターネット依存」の順に多かった。特に前2項目については7割以上の保護者があてはまるとしていた。

両者を比較すると、全ての項目で中学生の方が小学生よりもあてはまる割合が多かった。両者の差が大きい主なものは、「進路（進学・就職など）」、「勉強の遅れや学力の低下」、「昼夜逆転など生活リズムの乱れ」、「ゲームやインターネット依存」が挙げられ、それぞれ34.0ポイント、23.9ポイント、18.5ポイント、15.6ポイントの順に差があった。

小学生の保護者アンケート（85名）：今保護者として困っていること

選択肢	1 よくあてはまる	2 ややあてはまる	3 どちらともいえない	4 あまりあてはまらない	5 まったくあてはまらない	無回答	あてはまるの割合(1+2)
悩みを聞いてもらえる機関や場所が見つからない（または分からない）	2	10	18	22	30	3	14.1%
子供とどう関われば良いか分からない	3	15	12	17	35	3	21.2%
学校の情報が入ってこない	2	8	18	26	29	2	11.8%
学校を休むことについて家族の理解が得られない	2	9	7	24	42	1	12.9%
金銭的な負担が増えた	24	16	8	15	21	1	47.1%

中学生の保護者アンケート（116名）：今保護者として困っていること

選択肢	1 よくあてはまる	2 ややあてはまる	3 どちらともいえない	4 あまりあてはまらない	5 まったくあてはまらない	無回答	あてはまるの割合(1+2)
悩みを聞いてもらえる機関や場所が見つからない（または分からない）	7	22	20	31	28	8	25.0%
子供とどう関われば良いか分からない	6	25	16	33	28	8	26.7%
学校の情報が入ってこない	7	25	20	33	23	8	27.6%
学校を休むことについて家族の理解が得られない	8	19	9	34	44	2	23.3%
金銭的な負担が増えた	24	24	19	24	22	3	41.4%

保護者アンケートによると、「今保護者として困っていること」は、小学生は「金銭的な負担が増えた」、「子供とどう関われば良いか分からない」、「悩みを聞いてもらえる機関や場所が見つからない（または分からない）」の順に多かった。中学生は「金銭的な負担が増えた」、「学校の情報が入ってこない」、「子供とどう関われば良いか分からない」の順に多かった。

両者を比較すると、どちらも4割以上の保護者が「金銭的な負担が増えた」ことで困っていると回答した。また、「学校の情報が入ってこない」は、中学生の方が小学生よりも15.8ポイント高かった。

2 つくば市の不登校児童生徒支援に関する基本理念

文部科学省では、教育機会の確保等に関する施策を総合的に推進することを目的として、義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律（平成二十八年法律第五号。以下「教育機会確保法」という。）を施行した。同法第三条には、不登校児童生徒に対する教育機会の確保に関する施策について、以下の基本理念が示されている。

一 全ての児童生徒が豊かな学校生活を送り、安心して教育を受けられるよう、学校における環境の確保が図られるようにすること。

二 不登校児童生徒が行う多様な学習活動の実情を踏まえ、個々の不登校児童生徒の状況に応じた必要な支援が行われるようにすること。

三 不登校児童生徒が安心して教育を十分に受けられるよう、学校における環境の整備が図られるようにすること。

四 義務教育の段階における普通教育に相当する教育を十分に受けていない者の意思を十分に尊重しつつ、その年齢又は国籍その他の置かれている事情にかかわらず、その能力に応じた教育を受ける機会が確保されるようにするとともに、その者が、その教育を通じて、社会において自立的に生きる基礎を培い、豊かな人生を送ることができるよう、その教育水準の維持向上が図られるようにすること。

五 国、地方公共団体、教育機会の確保等に関する活動を行う民間の団体その他の関係者の相互の密接な連携の下に行われるようにすること。

また、不登校児童生徒への支援の在り方について（元文科初第 698 号令和元年 10 月 25 日付け文部科学省初等中等教育局長通知）において、不登校児童生徒への支援は、「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があることが示されている。その一方で、不登校は学業の遅れや進路選択上の不利益や社会的自立へのリスクが存在することも示されている。

つくば市においては、不登校の要因や不登校児童生徒の家庭状況等に応じて、担任、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の学校関係者を始め、不登校児童生徒を支援する施設を運営する団体及び個人その他の関係者が連携して支援を行うことで、社会的な自立に向けた取組を行っていくこととする。

3 多様性や個性を認め伸ばす学校づくり

(1) 魅力ある学校づくり

不登校はどの児童生徒にも起こりうることであるとの認識のもと、すべての児童生徒にとって安心と魅力のある学校づくりに努める。そのために、分かる・楽しい授業づくり、楽しい学級・学校づくり、心の安定のための相談体制の充実を図る必要があると考える。

(2) 児童生徒に対する支援

① 分かる・楽しい授業づくりのために

児童生徒の実態をもとに個に応じた指導を実践し、児童生徒1人1人が分かる授業を展開する。また、楽しいを実感できるように、自分の身近な事柄から学習課題を設定したり、自分で学習方法を選択したりすることができるなど、主体的な学びの実践を図る。

② 楽しい学級・学校づくりのために

思いやりのある温かい学級になるよう学級活動や学校行事等を充実させる。また、学年、学級の絆を深めるような活動を取り入れ、児童生徒1人1人の居場所づくり、絆づくりに努める。

③ 心の安定のための相談体制の充実のために

学級担任と児童生徒の信頼関係を最重点と位置づけ、積極的なコミュニケーションから関係構築を図る。また、保健室の充実、誰とでも相談できる体制を目指し、日々の困り感に寄り添うことができる相談体制の構築を図る。

(3) 保護者に対する支援

保護者の孤立を防ぎ、将来的な見通しを持てるようにするために、担任を始め学校職員だけでなく、SCやSSW、教育支援センターの相談員も含めて多様な関係職員で関わる。また、様々な情報を確実に案内することで、保護者の不安の解消を図る。

4 状況別の不登校児童生徒への支援

(1) 主な要因に合わせた支援

① 本人の心の不安を主な理由にする児童生徒

・不安の軽減、解消が必要

⇒担任、養護教諭、スクールカウンセラーによる学校での教育相談、教育相談センターでの面談の活用

◇スクールカウンセラーの増員

つくば市では、現在21人のスクールカウンセラーが勤務しているが、相談件数の増加により相談の予約が取りにくい現状である。この状況を打開するため、令和

5年度から令和7年度にかけて、1学校に1人スクールカウンセラーを配置できるように、増員を図っていく。

◇教育相談員の増員

教育相談センターでは、教育相談を担当する教育相談員が8人、つくしの広場を担当する教育相談員が2人勤務しているが、相談件数の増加により相談の予約が取りにくい現状である。この状況を打開するため、令和5年度に教育相談員の増員を図る。

② 家庭における問題や家庭環境に原因がある児童生徒

・家庭における問題の解決が必要

⇒担任、学年職員による家庭訪問、スクールソーシャルワーカーによる訪問相談、保護者支援

◇スクールソーシャルワーカーの増員

つくば市では、現在8人のスクールソーシャルワーカーが勤務しており、学校での相談業務や家庭訪問等を行っているが、より充実した生活相談やアウトリーチを行うため、令和5年度から令和7年度にかけて、1学園に1人スクールソーシャルワーカーを配置できるように、増員を図っていく。

◇保護者支援

不登校で悩んでいる保護者に対しては、相談機関や支援機関をホームページやチラシ等様々な媒体を通して周知することが必要である。また、不登校児童生徒を持つ保護者同士がつながりを持つ交流の場として、学校の空き教室を提供するなど、協力することが望まれる。

③ 学校生活に適應できない児童生徒

・学校以外の枠組み（施設）での対応が必要

⇒不登校児童生徒支援施設の利用

◇つくしの広場（公設）

登校できない状態の児童生徒に、人間的なふれあいを基盤とした集団生活の体験を通して、自主性・社会的適應力・自立心などを伸ばすような援助・指導を行っている。

運営：つくば市教育局（直営）

場所：つくば市教育相談センター内（沼田40番地2）

運営体制：週4日稼働

◇ここにこ広場（公設）

不登校児童生徒に対し、社会的自立へ向けて進路の選択肢を広げることを目的に設置。児童生徒が学校や自宅以外の居場所と感ずることができるよう、一人ひとりに合わせた、将来

を展望できるような支援を行う。

運営：株式会社トライグループ（委託事業（R4.4～R7.3））

場所：個別教室のトライ研究学園駅前校内（研究学園五丁目12番地10）

運営体制：週4日稼働

◇むすびつくば（公設）

不登校児童生徒への学習支援策として、NPO法人リヴォルヴ学校教育研究所と協働事業として開始し、令和4年度は委託事業とした。集団ではなく、個に応じた様々な学習機会を提供するとともに、一人ひとりの育ちに応じた支援等を行っている。

運営：NPO法人リヴォルヴ学校教育研究所（委託事業（R4.4～R5.3））

場所：つくば市産業振興センター内（吾妻二丁目5番地1）

運営体制：週4日稼働（通所者は週2日通所（月木・火金の2コース））

◇民間フリースクール等の支援施設

令和5年度から、公設以外の不登校支援施設を利用する児童生徒に対し、利用に係る費用を補助することで、様々な学習機会や居場所が選択できるような支援を行う。

(2) 欠席日数に応じた支援

① 欠席日数が比較的少ない児童生徒

- ・一人一人に応じた登校しやすい環境の整備が必要
- ⇒通常の教室以外に登校できる別室を用意するなど個別に対応

◇校内フリースクールの整備

令和4年度から、教室に行けない（行きづらい）生徒に対し、学校内の教室以外の部屋で学習支援や安心できる居場所を提供することを目的として、中学校1校に専任の教員を配置し、校内フリースクールを設置した。同校で得られたノウハウを共有し、今後も対象校の拡大を図る。

② 欠席日数が比較的多い児童生徒

- ・学校以外で活動しやすい環境の整備が必要
- ⇒学校外の施設での自立支援

◇(1)③に同じ

③ ほとんど出席できない児童生徒

- ・本人と学校の関係維持に努め心の安定を図るとともに、家庭における学習を支援する環境の整備が必要

⇒家庭訪問、スクールソーシャルワーカー、教育相談センターの活用、オンライン学習支援

◇本人、家庭、学校の関係維持のため、担任を中心とした教員による家庭訪問を実施する

◇スクールソーシャルワーカーによる家庭訪問、訪問相談の実施



◇授業のライブ配信、つくばチャレンジングスタディ、いばらきオンラインスタディ等による学習支援

5 支援策の推進スケジュール

① 校内フリースクールの整備（1校に1室配置）

令和4年度：中学校1校

令和5年度：小学校6校、中学校15校

令和6年度～令和7年度：全校

② スクールカウンセラーの増員（1校に1人配置）

令和4年度：21人分

令和5年度：33人分（12人分増員）

令和6年度～令和7年度：56人分（23人分増員）

③ スクールソーシャルワーカーの増員（1学園に1人配置）

令和4年度：8人分

令和5年度：17人分（9人分増員）

令和6年度：18人分（1人分増員）

④ 不登校児童生徒の保護者に対する補助金の創設

令和5年度：

⑤ 不登校児童生徒の民間支援施設に対する事業費補助金の創設

令和5年度：